

広報

# ただみ

2

2016 月号

No. 549

平成28年2月10日

## みんなで元気に 「ブナりん体操」!!

### 今月の表紙

1月26日、冬期間の恒例事業となっている「おたっしゃ教室」が上福井集会所で行われました。

この日は、介護予防を推進するために作られた「ブナりん体操」が行われ、参加された皆さんはとても楽しそうに体操をしていました。

「ブナりん体操」が収録されたDVDは、町内の方を対象に無償で配布していますので、自宅などでも「ブナりん体操」がしたいという方は、保健福祉課までお問い合わせください。

### 〈News&flash〉

只見町新年交歓会／福島で林明輝写真展 ほか…2～3

「自然首都・只見」学術調査

研究助成事業成果発表会……………4～7

### 〈町の話〉

梁取早乙女踊り／冬期講座 ほか……………8～9

# 平成28年 只見町新年交歓会

1月5日、季の郷湯ら里で平成28年只見町新年交歓会を開催し、町内の事業所や団体などから約140名の方が出席されました。

目黒町長はあいさつで、少子高齢化対策や定住促進対策など町の課題解決に取り組み、町の発展に尽力する考えを示しました。続いて、齋藤町議会議長があいさつし、星公正県議から祝辞が述べられました。

交歓会では、只見松楓会の祝辞披露や、はぎの会のアトラクションで新年の門出を祝いました。



▲新年のあいさつを述べる目黒町長



▲万歳三唱で只見町のさらなる飛躍を誓いました

# 角田行雄氏(小林)が再任

1月5日に、町長室で角田行雄氏に教育委員の委嘱状が交付されました。任期は平成28年1月5日～平成32年1月4日までの4年間です。

角田氏は教育委員長も続投され、「只見町はもちろん、今や政府も地方も地方創生に全力を挙げて取り組んでいます。私は地方創生には、その地に生きる子どもや大人が、その地に学び、知り、その地を好きになり、他の土地の人に誇りを持ってその地を語る人材の育成こそが根本だと考えています。人材育成講座やおもしろ只見学がまさにその取り組みであり、只見に学んで、只見を好きになって、いつか只見で力を発揮してくれる人材を育成する為、精一杯頑張るつもりですので引き続きよろしく申し上げます。」と教育委員長としての抱負を述べられました。



▲民具を伝える授業を行う人材育成講座6期生



▲教育委員長を続投する角田行雄氏



▲成法寺の文化財消火訓練は、1月26日の文化財防火デーに伴い行われました



▲出初め式で無火災祈願をする消防団員

## 今年も防火活動に力を入れます 消防出初め式 文化財消火訓練

今年も防火活動に力を入れます

1月10日、朝日振興センターで平成28年消防出初め式を行い、関係者や消防幹部団員など約70名が出席しました。

昨年町内では、大きな火災は発生しておりませんが、今年も予防消防に務め、町内で火災が発生しないよう参加した団員は改めて防火活動に力を入れる事を決意しました。

また、1月31日には文化財消火訓練が梁取の成法寺で行われ、実際に水を出しての消火訓練が行われました。

## 林明輝さんの写真約50点を展示 福島で只見の魅力伝える写真展

林明輝さんの写真約50点を展示

「自然首都只見町の四季」林明輝写真展が1月26日〜2月1日まで福島市のコラッセふくしまで開催されました。この写真展は、福島県と只見町の主催で、ユネスコエコパーク只見町の自然や文化をはじめ、奥会津の魅力を広く再認識してもらおうと企画されたものです。

会場には、写真家の林明輝さんが撮影した四季折々の只見町の写真が大型パネルで展示され、来場者は美しい景色や只見線の魅力を伝える写真に見入っていました。



▲会場にはたくさんの方にお越しいただきました

## 暖冬により例年より10日遅れ 雪まつり雪運搬式

暖冬により例年より10日遅れ

1月28日、雪まつり会場となるJR只見駅前広場で雪まつり雪運搬式が行われました。

今年は暖冬でまとまった雪が降らず、例年より10日遅れの雪運搬式となりました。1月下旬にかなりの雪が降りましたがそれでも例年に比べ雪は少ない状況です。

今年の大雪像はイタリア「サン・マルコ寺院」が制作されますが、規模を縮小しての実施となり、大雪像はサイズを小さくし、入場門はかまぐらに変更されます。



▲運搬式の最後に安全を祈願して献杯



平成27年度「自然首都・只見」学術調査研究助成事業

# 研究成果発表会



平成27年度「自然首都・只見」学術調査研究助成事業の成果発表会が、1月31日に朝日振興センターで行われました。住民への学習機会の充実、各研究機関との交流の推進、研究成果の活用を図ることを目的に始まった本事業も今年度で4年目を迎え、今年度の学術調査の件数は7件となりました。

成果発表後、鈴木和次郎ブナセンター長が講評を行い「この事業を引き続き行い、さらに発展させるため今回発表された皆さんには今後も引き続き只見町で研究・調査を行っていただきたい。そして皆さんの調査研究をぜひ只見町に還元するため国内外で積極的に研究内容の発表して欲しい。研究成果を上げる事が只見町の財産になります。」と述べました。

今年度はどのような調査研究が行われ発表されたのか主な内容を皆さんにご紹介させていただきます。



▲皆さんに分かりやすいように図や写真などが多く使われ発表されました

## 「フクジュソウの花の形の多様性とその要因」

横浜国立大学 理工学部 近藤 菜々美さん



### 目的・調査方法

只見町の河川沿いによくみられるフクジュソウは、花弁、胚珠、雄しべの数が多様である。花は蜜がない代わりに太陽を向いて咲き、花の内部の温度を高めて、訪花昆虫を誘い、種子の発達を促す。本研究では、フクジュソウの花の形の多様性とその要因を①個体における資源量（花を生産するエネルギー量）の違い②開花時期の違いの2つの観点から明らかにすることを目的とした。

調査方法は、2015年の4月末から5月中旬にかけて、黒谷川沿いに10m×20mの調査枠を設置し、その中に訪花昆虫の観察パッチ（目視：1m×1m、ビデオでの観察：50cm×50cm）を3カ所ずつ配置した。パッチ内のフクジュソウ全69個体、81花の開花日、花弁数、花弁長と幅、雄しべ数を計測し本研究で定めた指標により比較を行った。

### 結果・まとめ

資源量が多いほど二花を生産し、一花あたりの雄しべ数、胚珠数が増加した。また一花あたりの花弁数は、資源量とともに増加した後、13枚で留まり、13枚がフクジュソウにとって適した形であるか、これ以上は生産できない発生的制約があると考えられた。

開花時期の違いにより花弁数などに差は無く、雄しべ数、胚珠数は前期が後期より多い。訪花昆虫の種類（前期：ハエ類、後期：ハチ類）は異なり、ハエ類の方が花あたりの滞在時間が長く、ハチ類は滞在時間は少ないが、比較的多くの花を訪れ花粉を集めていた。前期に咲く花は、訪花数が少ない環境を反映し、1回の訪花での送粉量を多くするため雄しべ数を多くもち、胚珠数も多く生産することで成熟種子数に差が出ないよう進化したと言える。

## 「ユネスコエコパークという選択はどのようになされたのか 綾・屋久島・只見の事例から」

放送大学院 文化科学研究科 戸田 恵美さん



### 目的・調査方法

現在、日本国内では7カ所がユネスコエコパークに登録されているが、地域振興の成功例ともされる宮崎県綾町、世界自然遺産の鹿児島県屋久島町、そして只見町の3地域で人々がどのように自然環境と関わり守ってきたのかを調査し、各自治体がユネスコエコパークを選択した過程を概観し、共通の目的と考えられる地域振興における課題解決への取り組みの共通点・相違点を明らかにすることで、今後ユネスコエコパークが只見町で持続的な発展をもたらすための指針を示すことを目的とした。

調査方法は屋久島・綾・只見の住民への聞き取りのほか、既存の研究論文・書籍・行政資料などから只見町ほかへの評価を検討し、ユネスコエコパークへの登録と地域活動の関連性、利害関係の構図を示す。

### 結果・まとめ

3自治体いずれも自然の厳しさゆえ自然と共生する暮らしがあり、自然破壊の危機と自然保護運動の歴史があった。そして自然に学ぶ体制を持つことが評価されユネスコエコパークとして承認がなされていた。只見町ではユネスコエコパーク承認により、地域振興に焦点が当てられていることに地域住民の期待が集まっていた。

しかし、どの自治体も地域振興へのユネスコエコパークの寄与は課題があり、今後地域住民・行政・研究者などがさらなる協議を重ねる場をもつことが町にとっての責務であると思われた。

本研究によりそれぞれの土地で出会った方々の知恵と工夫と郷土愛が行政に生かされることを強く望み、今後本研究はユネスコエコパークが持続的であるための課題解決への取り組みの具現化を検討していきたい。

## 「形態・生態・遺伝から考えるヤブツバキとユキツバキの種分化」

＜共同研究者＞

新潟大学院 三浦 弘毅さん

新潟大学 農学部 崎尾 均さん

新潟大学 農学部 阿部 晴恵さん



### 目的・調査方法

日本全国の海岸沿いに分布するヤブツバキと日本海側多雪地に分布するユキツバキの2種は、花糸（おしべの糸状の部分）の合着率や色などで形態的に分けることができると言われ、葉緑体DNAでも選別が可能であるが、両種が同所的に分布すると雑種を形成するといわれており、両種が別種であるのかは議論がある。そこで、両種の種分化（ある一つの種が2つ以上に分かれ、お互いに交配ができなくなった状態）を解明するため、形態的差異と花粉媒介者の違い、葉緑体DNAを比較することにより、両種の種としての分化の程度を明らかにすることを目的とした。

比較のために採集したヤブツバキとユキツバキは葉形態は顕微鏡で観察、花形態・花色は写真撮影による計測、また遺伝解析や古分布（過去の分布）を推測して比較を行った。

### 結果・まとめ

調査をした結果、葉形態、花形態、遺伝解析から2つのグループに分けることができ、それがヤブツバキとユキツバキの分布域と大きく一致すること、花粉媒介者が大きく異なることから両種の生殖隔離が起きており、別種である可能性が示唆された。また、ヤブツバキは氷河期に中華人民共和国南東部から南九州の沿岸部、紀伊半島、伊豆諸島に分布が南下し、関水期に現在の分布に北上したことが推測されたが、ユキツバキは間氷期である現在と氷河期ではヤブツバキほどの大きな移動が見られなかった。

2種の分化程度は、①形態、生態、遺伝学的に大きな違いがあること、②遺伝解析の値に違いが見られないこと、③氷河期や間氷河期においても日本では分布が重ならないことから、両種が分化した年代は古く、日本列島で両種が分化したと考えるよりも、別種として日本に移入したと考えられる。

## 「タダミハコネサンショウウオの生息状況と集団遺伝構造 サンショウウオの過去を知り、未来を考える」

国立科学博物館 分子生物多様性研究資料センター 吉川 夏彦さん



### 目的・調査方法

只見町内のタダミハコネサンショウウオに関しては、昨年までの調査により只見川左岸の地域に分布する事、ほぼ全ての生息地で近縁種のコネサンショウウオと共存していることが明らかになっていましたが、本年度は調査範囲を広げて引き続き分布・生息状況把握のための調査を行うとともに、遺伝的解析を行い、町内におけるタダミハコネ・コネ両種の遺伝構造を調査した。

調査は2014年7月～2015年11月の積雪期を除いた期間に39地点で行い、主に溪流や沢でオオサンショウウオを捕獲し、各種記録とDNA分析を行った。採集対象は主に幼生で、発見が容易であることと、採集による個体群への影響を最小限にできることが理由である。

また、近隣個体群としてDNA分析は、檜枝岐産の22個体も同時に解析に加えた。

### 結果・まとめ

調査の結果、只見町内で300個体のコネサンショウウオ属を捕獲した。ミトコンドリアDNAによる分析の結果、檜枝岐産の22個体を加えた322個体のうち98個体がタダミハコネであった。昨年の調査ではタダミハコネの確認地点は全て只見川左岸側に位置したが、右岸側にあたる田子倉ダム南側、十島地区でも確認された。今回、只見川右岸側でも生息を確認できた事は、タダミハコネにとって只見川が移動を妨げる障壁になっていなかったこと示唆しており、只見川のさらに東側にも生息している可能性がある。

また、ミトコンドリアDNAの配列に基づくネットワーク樹の結果から、タダミハコネは只見地域に古くから生息する在来の種で、コネはそれに比べると比較的最近になってからこの地域に分布を拡大してきた種であると推測される。

## 「阿賀野川流域におけるユビソヤナギの分布・生育状況」

＜共同研究者＞  
希少種保全研究会 菊地 賢さん 金指 あや子さん



### 目的・調査方法

伊南川や黒谷川を除く阿賀野川水系でも近年、阿賀川支流加藤谷川や長瀬川、奥只見湖周辺からユビソヤナギの自生が報告されているが、詳細は不明であった。そこで、阿賀野川流域におけるユビソヤナギの自生状況を調査するとともに、群集調査を行い、流域内のユビソヤナギの自生状況を把握することとした。

調査は只見川流域を含む阿賀野川流域のうち、河床の広い山地河川である奥只見湖周辺、阿賀川本流（大川）、加藤谷川（阿賀川支流）、長瀬川を対象にユビソヤナギの分布調査を行った。ユビソヤナギの個体群が見つかった河川では、1～3箇所程度を選んで調査句を設置し、植物群落調査を行った。また、各調査区の群集組成データに、既に得られているデータを加え解析も行った。

### 結果・まとめ

ユビソヤナギの分布は、阿賀野川水系のなかでも上流部に限られ、互いに隔離していた。その分布は花こう岩地帯と一致することが多く、花こう岩が生み出す細かい砂と小石がユビソヤナギの生育地を生み出す一因であると考えられる。ユビソヤナギの分布を規定する要因については今後検討する必要がある。

只見川流域の自生地と新たに調査を行った自生地との間で群集構造が違う事も明らかになった。伊南川・黒谷川では、シロヤナギやオノエヤナギが優先する傾向がある一方、奥只見湖周辺などでは、ユビソヤナギやオオバヤナギが優先する林分（樹木の種類などがほぼ同じで、となり合う森林と区別できる森林）が多かった。河床勾配や土性の違いが群集組成に影響していると考えられ、只見川本流の自生地は原生度も高く保全価値の高い自生地と考えられる。

## 「ブナがダメージを受けると土壌動物の棲みかが増える」

東京農工大学 農学部 吉田 智弘さん



### 目的・調査方法

伐採や雪害による樹木の形態変化が多く観察される只見町のブナ林で、ブナへのダメージが樹体を変形させた結果、①樹洞が増加し落ち葉溜まりが増加しているか②落ち葉溜まりを利用する土壌動物が林床の土壌動物とどれくらい異なるのかを明らかにすることを目的とし、蒲生「あがりこブナの森」梁取「ただみ観察の森」の2箇所を調査を行った。

樹洞調査として、2箇所のブナ林で物理的なダメージを受けて変形したブナと通常のブナの樹幹本数を数え、地上高2m以下の幹・根部分の樹洞の有無を確認した。

土壌動物調査として、ブナの樹洞の落ち葉溜まりから枯死有機物を採集し、そこから装置を使い抽出した土壌動物を目レベルで種類を判別した。

### 結果・まとめ

ブナの通常木では主幹はほぼ1本であったのに対して、変形木は萌芽再生によって2本以上の幹が存在するものが多く幹や根部分が曲がったり折れたりした部分に樹洞が形成されていた。

また、落ち葉溜まりから採集した枯死有機物には多数の土壌動物が確認され、おもに採集された動物はササラダニでありトビムシ、トゲダニも多かった。

ブナはダメージを受けると樹体を変形し、樹洞が増え土壌動物の棲みかが増える事が確認された。樹洞は、形成の仕方によって枯死有機物の状態が異なっているようであった。このことは、ブナ樹体の変形は、樹洞の形成を通じて落ち葉溜まりをつくるだけではなく、そこにある枯死有機物の状態を多様にする事で、結果として動物の多様性をもたらすことが考えられた。

## 「只見町の古民家は何の木でつくられているのか？」

信州大学 教育学部 井田 秀行さん



### 目的・調査方法

人が暮らす地域としては世界有数の豪雪地域にある只見町で昭和初期以前に建てられた古民家の建材にはどんな樹種を用いているのか、その構成を明らかにする事で失われつつある只見町の伝統的な建築技術を後世に残す一方で、風土に適した木材利用への応用も期待できる。

調査物件は、3軒で、浮島(布沢)、亀岡、間丸貝(塩ノ岐)に建つ茅葺き屋根の典型的な曲屋を実測調査(間取り部材の採寸)し、平面図を作成。併せて、民家に関わる普請や昔の暮らしぶりを把握するため、各民家の持ち主および集落の住民へのヒアリング調査を行った。

また古民家の木材を採取し、光学顕微鏡を用いて細胞を観察することにより、その木材はどんな樹種なのか判別する作業を行った。

### 結果・まとめ

浮島の古民家は、ヒアリングによると昭和7年に建築された。木片130部材を採取した結果、キタゴヨウやスギ、ブナやケヤキなど使用樹種は8種であった。間丸貝の古民家は弘化2年(1845年)に建築されたと推定され、木片144部材を採取した結果、キタゴヨウやスギなど使用樹種は6種であった。亀岡の古民家は明治前期の建築と考えられ、使用樹種については平成28年1月20日現在、解析中である。

調査の結果、それぞれの民家の建材の樹種構成には周辺の里山林の様子が色濃く反映されていた。最も特徴的なのは、尾根筋に自生するキタゴヨウの建材利用で、スギは代々植栽したものを利用して、曲げ強度の大きいブナは、積雪に耐えられるよう屋根の骨組みに多用されていたと考えられ、限られた木材資源を適材適所に使い分け、厳しい自然環境に対応していたことが推測された。



▲たくさんの人達に囲まれ餅をつく「只見餅つき隊」

会場の皆さん大喜び!

## 「只見餅つき隊」が東京 渋谷の道玄坂で餅つき!!

1月11日、渋谷道玄坂商店街振興組合・東京都主催の道玄坂チャリティ餅つき大会に、只見の農家を中心とした「只見餅つき隊」が参加しました。只見餅つき隊の参加は今年で2回目で、参加するようになったきっかけは、以前から宇都宮などで餅つきを行っており、東京でもやってみたいと考えていたところ、知り合いのスキーボード協会の方が道玄坂に店を持っていて、その方に道玄坂商店街の理事会ではかってもらい実現できたそうです。

当日は天候にも恵まれ、家族連れや外国人など多くの人達でにぎわい、臼と杵を使った餅つきに会場の皆さんは大喜びで、1,500食分(もち米150kg)が販売され、売り上げは福祉団体に寄付されチャリティーにも協力できました。

道玄坂商店街の皆さんも喜んでくださり、来年の参加もお願いされたそうです。今後、只見と同玄坂の関係が深まっていくことを期待したいですね!

## 梁取地区の伝統行事

### こがい まんざい 蚕養万歳と早乙女踊り が行われました

1月9日、梁取地区で新年を祝う歌舞「蚕養万歳」五穀豊穡、御家内安全などを祈願する「早乙女踊り」が行われました。

この伝統行事には子供から大人まで参加し、梁取集会施設でお披露目を行った後、集落内の家々を巡りました。巡る家は、区長宅や班長宅、それに厄年や新築・婚礼のあった家などとなり、今年は4軒を巡りました。

梁取の早乙女踊りは、町内の小林や小川の早乙女踊りと基本的には同じですが、蚕養万歳が対<sup>ついで</sup>になって行われていることが特色です。



▲早乙女踊りに先立って行われる蚕養万歳

これまでの活動が認められ

## 明和青年団が 県から表彰されました

第38回福島県青少年健全育成推進大会で、明和青年団が福島県青少年育成県民会議会長表彰を受賞しました。

この表彰は、科学研究活動や芸術・文化活動、スポーツ活動、社会奉仕活動などで青少年の健全育成に成果をあげている団体が表彰されるもので、明和青年団はこれまで地域で行ってきた活動が認められ、今回の表彰となりました。



▲これからも頑張って活動を続けてください





▲先生の渡部 稔さんは簡単にほうきを編みますが、実際にやってみると非常に難しく、皆さん何度も稔さんから編み方を教えてもらいました  
(朝日地区 ほうきづくり教室)



▲試行錯誤をしながら釉薬を付けましたが、なかなか思い通りにはならず難しそうでした  
(明和地区 陶芸教室)

## 冬だからできること!

## 各振興センターで冬期講座

冬になり、各振興センターでは冬期講座が行われています。農作業などで忙しく普段はなかなかできない事も、冬だから作れる時間があり作品作りに取り組んでおられる方もいらっしゃると思います。

皆さんの作品は、3月に各振興センターで行われる只見地区冬期講座発表会、朝日のいいもの集めちゃった市、明和公民館まつりで展示されますので、多くの皆さんに足を運んでいただき作品を見て欲しいと思います。

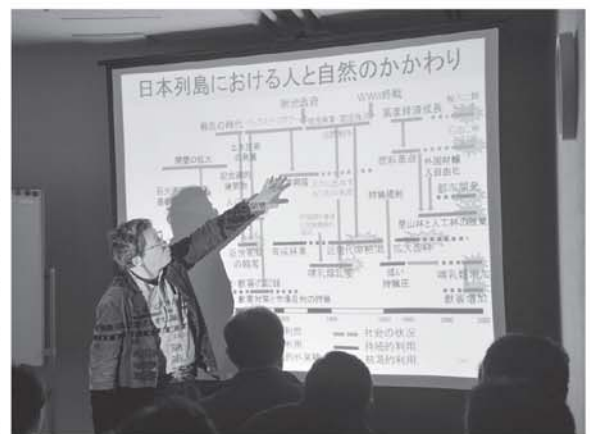
## 只見町公認自然ガイド特別育成セミナー 「日本における里山管理の歴史」

1月30日、特別育成セミナーがブナセンターで開催され、湯本 貴和氏(京大霊長類研究所 教授)にご講演いただきました。湯本氏は、国内外で精力的に動物と植物の相互関係を研究されており、現在は日本列島の歴史の中で「人と自然との関わり」について紐解いておられます。今回はその成果についてお話していただきました。

日本列島は、世界的に見ても生物多様性の非常に高い地域の一つであり豊かな自然環境が残されていますが、昔はどのような利用がされてきたのでしょうか。

花粉分析や古文書の記録など様々な資料を集め付き合わせていくと、平安京などの大都市を作る際に山の過剰な利用があり、いたるところが禿山になっていた意外な事実がわかっています。その一方で、水源地である山林を大切に守ってきたことや、森を切り尽くさず持続的に利用する術を伝えている地区もあり、先進国で“古くから繰り返し人の利用があるのに生物多様性が高い”ことは希少なことだとお話がありました。

町内外より約30名が参加され、山や里の利用の歴史を振り返ることで今後の利用方法を考える機会となりました。



▲自然と共存する只見町にとって非常に大切なお話をいただきました

## 広報ただみ診療所

朝日診療所  
所長 若山 隆



### 「皮膚のかゆみの原因」

雪がピークを迎える2月になりました。今年は雪が少なく除雪が楽ですね。

さて今回は冬場に多くなる皮膚のかゆみの原因の一つについてのお話です。冬場は暖房をつけて空気が乾燥したりすることでかゆみを感じる方がいます。乾燥が原因であれば、加湿や保湿剤などの使用で大抵はかゆみが良くなります。それでもなかなか治らない頑固なかゆみの場合、ダニが原因のことがあります。ダニが皮膚に感染する病気を医学的に疥癬(かいせん)と呼びます。ダニは人の皮膚にもぐりこみ、トンネルを作って移動し、卵を産んで増殖しますが、その過程で強いかゆみを生じます。ダニは目に見えないほど小さく、顕微鏡を用いてようやく見つけることができます。しかしダニの作るトンネル(疥癬トンネルといいます)は目に見える場合があります、診断につながる場合があります。手の指の間、脇の下、股、お腹などにできやすく、点状の

発赤や白い2～10mmの白い線(疥癬トンネルです)が特徴です。疥癬がやっかいなところはヒトからヒトにうつることです。ダニは感染した人の肌に直接触れることでうつります。しかしダニはヒトの肌にはないと24～36時間で死んでしまう弱いものなので、衣類やベッドなどを介して他者に感染する可能性は低めです。比較的寒さに強いので、夏より冬に患者さんが多くなります。治療法は医療機関では飲み薬や塗り薬で治療します。自宅ではお風呂に入るなどで皮膚をきれいにし、衣類や布団などを洗濯機であらって乾燥されるか、ビニール袋などに入れて3日間放置したりしてダニを死滅させることで悪化を防ぎましょう。もし家族に疥癬の人がいたら、タオルを共用しないことや、肌に触れる場合は手袋をするのがよいでしょう。

もし、つらいかゆみがあって、疥癬が心配な方がいれば、朝日診療所か皮膚科にご相談ください。

## 地域おこし協力隊として vol.16 只見町教育振興協力隊 末谷 広大

### 『つもり』

大変遅れましたが、新年あけましておめでとうございます。今年もどうぞ山村教育留学生・留学制度をよろしく願いいたします。

さて、普段より教育委員会で高校生と触れ合う機会が多いと、自分が高校生だった頃をよく思い出します。私は当時、剣道部に所属していましたが、恩師に「つもり」について指導されたことがあります。

「つもり」それは盲目に、主観的に自分をとらえる意識です。「相手を見て面を打っているつもり」「一生懸命練習をしたつもり」。学習に置き換えてみれば「勉強したつもり」「理解したつもり」「覚えたつもり」になります。しかし、それはあくまで自己の正当化をするために抱く意識であり、客観的にみれば必ずしも自分と同じ意識を他者も持っているとは限らず、また本人が思っているほど努力を重ねたもので

はない場合がほとんどです。『現役東大生が教える!頭がよくなる7つの習慣』では、この「つもり」を「勉強」と「作業」とに分け紹介していたり、『仕事をしたつもり』では、「仕事」をテーマにこの事柄が述べられています。

高校を卒業し10年経ちましたが、あのころ恩師に指導された「つもり」について、改善できているのかと問われると胸を張ってできているとは言えません。しかし、出来ている「つもり」になるよりも、常に意識することこそが正しいのかもしれません。





▲ニセアカシアの花と葉

# 町史

とっておきの話

259

新潟大学教授

崎尾 均

## 只見町の水辺林は未来への遺産

—ニセアカシアの生態と管理—

河川流域には、多種類の外来植物が自生しています。その多くは緑化のため上流域に導入された植物です。なかでもニセアカシア（ハリエンジュ）は、全国の河川に分布域を広げて大きな問題となつていきます。

### ニセアカシアとは

ニセアカシアはマメ科の落葉高木で、原産地はアメリカ合衆国のアラチャ山脈周辺です。日本には一八七三年に持ち込まれ、街路樹や砂防樹、海岸防災林とし

できず発芽しないで休眠する種子とがあります。休眠した種子は種皮が傷ついて、水を吸収できるようにになったときに発芽します。それまでは土壌中で何年間も休眠するのです。

ニセアカシアの種子は、河川の流水によって上流から中下流へと運ばれます。とくに洪水によって土砂と一緒に運ばれた種子は、種皮に傷がついて水を吸収することが可能になり、土砂が堆積したところで発芽します。このためニセアカシアの種子は、季節に関わらず、洪水の直後に発芽します。

### 成長と根萌芽

ニセアカシアの成長は、非常に早く、発芽してから数年で開花結実します。一〇年間ほどは毎年一メートルほどの成長を示します。それと同時に、地下の根系を発達させます。地下の根系は地表面近くを伸張します。この水平根からは、根萌芽を発生



▲水平根でつながるニセアカシアの幹

の根萌芽を発生します。このような伐採管理がニセアカシアの拡大を助長してきました。ニセアカシアの根を掘っていくと、ほとんどの個体が水平根で周辺の個体とつながっていることがわかります。

### 繁殖特性

ニセアカシアは、種子による繁殖と根萌芽による繁殖を行います。原産地のアメリカでは森林火災によって種子発芽や萌芽の発生が生じますが、日本では河川の洪水によって種子が散布され、発芽が促進され、萌芽の発生へとつながります。ニセアカシアは繁殖に火と水を使い分け、世界中にその分布を拡大してきました。

### 伊南川における分布

ニセアカシアは只見町を流れる伊南川にも広く分布しています。上流域では、山腹の崩壊地に緑化樹として植栽されています。また、ロックシェッドおよびスノーシェッドの周辺、堤防や道路に沿っても植栽されています。伊南川と塩ノ岐川の合流地点の土砂置き場周辺には、樹高が二〇メートルもある林分が広がっています。

しかし、伊南川の上流域では中州に侵入しているものの、下流域の河川幅が広い中州にはほとんど分布せず、シロヤナギやユビソヤナギなどの在来樹種の河畔林が優占しています。この理由がわかっていませんが、伊南川でたびたび繰り返されてきた洪水と関係があるのではないかと考えられます。

今後、ニセアカシアが分布を拡大するかどうかはわかりませんが、河川生態系を変え、河川管理上、大きな問題を発生させる可能性があります。河川域からの除去を含めてニセアカシアの管理について検討することが必要です。

一方で、ニセアカシアは日本のハチミツ生産の重要な蜜源となっており、養蜂家にとってはなくてはならない樹木です。只見町周辺では五月下旬から六月上旬にかけて白い花を咲かせます。この時期には、遠くからでもニセアカシアを確認することができます。

### 種子と発芽

ニセアカシアの種子は、硬い種皮で覆われています。種子には秋の散布後、すぐに発芽できる種子と、散布されても水を吸収



# 只見短歌会

十二月詠草

大塚栄一

指導

県境の山路下れば雪椿越後の国へ撓ひて並ぶ

小倉キミ子

検査結果恐れつつ待つ病院にクリスマスツリー早も飾らる

古川 英子

大き丸の中に小さき丸二つ描きし孫の絵顔にも見ゆる

新国由紀子

使ひ込みしごぎ毛羽だちて物干すにをさまり良くて未だに使ふ

目黒 富子

師走中雪なき庭の赤き薔薇残り二輪に惹かれつつ過ぐ

関谷登美子

冬至には南瓜に豆腐と伝統を守り来たりて夕餉整ふ

渡部ゆき子

亡き父母の恋しく実家の仏壇に香の煙の消ゆるまで座す

馬場 八智

新年の準備早めに進めるもいつもの如く間に合はぬなり

渡部ヨリ子

英語の字片仮名の文字多くして半分解せぬままに日は過ぐ

新国 洋子

(出詠順)

# 只見俳句会

一月例会

目黒十一

指導

風花もみそらの青に染まりたり  
雪の午後子らの歓声響きたり

信

重ね行く移りし日々や日記買う  
石蹴って一つ二つと返り花

都

山峡の静もって行く雪の夜  
きりと嗅ぐ千枚漬や赤南蛮

洋子

兄いもうと二つちがいの柚子湯かな  
初暦富士の山より始まりぬ

浩子

朝酒に酔い肘でまどろむ三ヶ日  
重ね着や辻の地蔵は赤帽子

味代子

まず雪のなきこと記す初日記  
薪棚のへへののもへじ寒の雨

恒夫

赤き実をこぼしに来たる冬の鳥  
日はすぐに傾きやすき初雀

礼

病伏す友とのコーヒー冬の雲  
浅雪やカーテン開ける手も軽く

修一

新嫁や村の年賀の輪に座して  
初御空酸素大きく吸い込めり

一穂

御供えのありか窺ふ嫁が君  
青畳の淑気を切っけかるた飛ぶ

吉児

# 今月のお知らせ

## 電話番号

総合政策課 地域振興係 財政係	☎82-5220
総務課 総務係 職員係	☎82-5210
町民生活課 税務係 町民係	☎82-5110 ☎82-5100
保健福祉課 保健係 福祉係	☎84-7005 ☎84-7010
農林振興課 農政係 林政係	☎82-5230
観光商工課 観光係 商工係	☎82-5240
環境整備課 地域整備係 生活環境係	☎82-5270 ☎82-5280
会計室	☎82-5120
議会事務局	☎82-5300
農業委員会	☎82-5230
教育委員会	☎82-5320
学校給食センター	☎84-7180
只見保育所	☎82-2219
朝日保育所	☎84-2038
明和保育所	☎86-2249
朝日診療所 (歯科)	☎84-2221 ☎84-2612
訪問看護ステーション	☎84-2130
こぶし苑	☎84-2101
只見振興センター	☎82-2141
朝日振興センター	☎84-2111
明和振興センター	☎86-2111

## 試験

●平成28年度 国家公務員  
「国税専門官採用試験」  
(大学卒業程度)のお知らせ

仙台国税局では、バイタリテ  
イーあふれる税務職員を募集  
しています。

国税専門官は、国の財政を  
支える重要な仕事を担い、税  
務署等において、調査・徴収・  
検査や指導などを行う税務の  
スペシャリストです。

### ●受験資格

1 昭和61年4月2日〜  
平成7年4月1日生まれの者  
2 平成7年4月2日以降生ま  
れの者で次に掲げるもの

- ① 大学を卒業した者及び平  
成29年3月までに大学を  
卒業する見込みの者
- ② 人事院が①に掲げる者と  
同等の資格があると認め  
る者

### ●受験申込受付期間

・インターネット

平成28年4月1日(金)〜

4月13日(水)まで

・郵送又は持参

平成28年4月1日(金)〜

4月4日(月)まで

### ●受験申込方法

受験申込みは原則インタ  
ネット申込みとする。

郵送又は持参用受験申込  
書の請求は、最寄りの税務署、

仙台国税局人事第二課又は

人事院東北事務局へ行う。

### ●第1次試験日

平成28年5月29日(日)

▼試験に関するお問い合わせ先

仙台国税局人事第二課

試験研修係

☎022(263)1111

(内線3236)

## お知らせ

### 生活困窮者自立支援相談会 のご案内

平成27年4月1日から生  
活困窮者自立支援法の施行に  
伴い、生活相談・就労相談の支  
援体制をとっております。

冬期間の相談窓口として、  
福島県社会福祉協議会生活  
自立サポートセンター会津事  
務所の職員が2日間駐在し、  
相談をお受けしますのでお知  
らせします。

なお、相談には事前連絡が  
必要となります。

こんなときは早めに

相談しましょう

◆就職したいけれどみづから  
ない

◆収入が不安定で生活が苦しい

◆仕事をしたいけれど、病気  
が気になり

### ◆失業と借金で住む家もなく なりそう など

### ●相談日

2月17日(水)

10時30分〜17時まで

2月18日(木)

8時30分〜14時30分まで

3月16日(水)

10時30分〜17時まで

3月17日(木)

8時30分〜14時30分まで

### ●場所

南会津町社会福祉協議会

会議室

田島字中町甲3918-1

☎080(5849)8011

### ●お問い合わせ先

生活自立サポートセンター

会津事務所

☎0244(23)7445

只見町役場 保健福祉課

☎0244(84)7010

## 税 今月の納期

2月25日までに

納めましょう

●水道使用料(4期)

●農集排使用料(2月分)

### 只見おもしろ学クイズ

今回は、只見の冬に行わ  
れる行事に関する問題です。  
皆さんわかりますよね？

#### 〈第1問〉

只見町で、子どもが数え年  
6歳になると、正月2日の  
事始めの日に半紙に書く言  
葉は何でしょうか？

#### 〈第2問〉

只見町で行われているオ  
ンベ(さいのかみ)では、木に  
刺したモチをオンベの火で  
焼いて食べますが、この時に  
使われる木は何の木でしょ  
うか？

(答えは15ページです)

## 国有林モニターの募集

林野庁関東森林管理局では、国有林野事業をご理解いただくとともに、「ご意見・ご要望を把握し、国有林野の管理経営に役立てていたため、「国有林モニター」を募集します。

詳細については、関東森林管理局ホームページをご覧ください。

(<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/policy/business/monitor2627.html>)

### ▼問い合わせ

関東森林管理局国有林モニター  
担当係（企画調整課内）

☎027(210)1150

### 自動車の登録

#### 検査の手続きはお早めに

自動車の登録・検査手続きは、毎年3月に集中し、窓口や車検場が大変混雑します。名義変更や住所変更、廃車、車検などの手続きは2月中に行うなど、できるだけ早めに済ませていただくようお願いいたします。

### ▼問い合わせ

東北運輸局福島運輸支局

福島市吉倉字吉田54

(登録・検査関係)

☎0500(5540)2015

## 町長の手帳

### 町長スケジュール〈1月分〉

- 4日 職員辞令交付式、仕事始め式  
(広域消防只見出張所、あさひヶ丘、役場本庁)
- 5日 教育委員辞令交付式、只見町新年交歓会、  
年始知事懇談会(福島市)
- 6日 県関係機関及び新聞社等年賀挨拶(福島市)
- 10日 只見町消防団消防出初式
- 13日 町内誘致企業新年あいさつ(大田原市他)
- 14日 鈴木副知事との会合(福島市)
- 15日 只見町振興計画打合せ、  
只見町商工会新年懇親会
- 18日 只見町土地改良区理事会
- 19日 東邦銀行親和会新年会
- 20日 総務厚生・経済文教常任委員会
- 21日 自民党県支部連合会との意見交換会  
(会津坂下町)
- 25日 町特別功労者 故 新國卓氏葬儀
- 26日 「自然首都 只見町の四季」林明輝写真展  
(福島市)
- 27日 只見町議会1月会議
- 28日 只見ふるさとの雪まつり雪運搬開始式
- 29日 職員退職者連盟只見支部総会、  
南会津地方環境衛生組合予算査定(下郷町)
- 30日 菅家一郎衆議院議員国政報告会、  
ブナセンターセミナー
- 31日 自然首都ただみ学術調査助成金成果発表会・  
懇親会

### 「一期一会」

昨年の紅葉も終わりの頃、日本を旅行している外国人の家族と只見線で乗り合わせました。家族は、台湾の老夫婦とアメリカ在住の娘さん2人。老夫婦はともに90歳で日本が大好きで毎年日本を訪れており、今回は娘さん達と一緒に旅行をしていました。この日の目的地は金沢ということで、高崎まで車中いろいろとお話を聞きました。

老夫婦の旦那さんは、大正15年生まれで日本の統治下において日本の教育を受け兵士としても日本の軍隊経験をされていました。現在は、台北市で今なお現役の医師として活躍されており、お話を聞き何より驚いたのは、毎年日本を旅行しているとはいえ、日本の歴史・地理・文化・社会の事を本当に良く知っていた事です。日本での戦争体験については、賢い日本人が何故あんな戦争をしたのか理解できない。天のいたずら、歴史のいたずらとしてしか受け止めようがないとしながらも、過去の事は過去の事として憎しみの気持ちはなく、今はとにかく大好きな日本を旅することが健康と長寿の力の源だそうです。

その方から、先日愛する妻を突然失ったことを記した便りが届きました。一時のご縁とは言え、今年は2人そろって日本に来て頂けない事は本当に残念です。

同行した娘さんは、ロサンゼルスで地方紙を発刊されており、今回の日本での旅の素晴らしさを紙面で紹介され、車中での私との会話も写真入りで紹介して頂きました。草の根レベルから日本への理解と関心が寄せられればうれしく感謝。ご老人との台北における“再見”を期して。

只見町長 目黒 吉久

# 町民の消息

(12月26日～1月25日届出分)敬称略

## ■お誕生おめでとうございます

平野 暖真 (男/昌志・むつみ) 小林  
 中野 一 (男/陽介・智子) 只見  
 五十嵐 怜史 (男/剛・紗輝) 小林

## ■おくやみ申し上げます

新管	國寿	一	89歳	只見	見見
菅家	フミエ		95歳	只見	見見
三瓶	クニイ		88歳	只見	見見
三角	田登喜子		100歳	布沢	見見
目黒	正吉		83歳	長浜	見見
三瓶	タカキ		91歳	長浜	見見
岩瀨	ハツミ		93歳	長浜	見見
渡部	琴子		101歳	長浜	見見
矢沢	芳雄		67歳	長浜	見見
新國	卓		67歳	只見	見見

※「町民の消息」欄に掲載を希望されない方は、届出のときにその旨をお伝えください。

# 人のうごき

平成28年1月1日現在

人口 4, 451 (-12)  
 男 2, 169 (-6)  
 女 2, 282 (-6)  
 世帯数 1, 803 (+7)  
 高齢化率 44.1%

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入 3 転出 10 出生 0 死亡 5

## あとがき

▽全国的に暖冬で、只見も今年は雪が全然降らない！今年の雪まつりはどうなってしまうんだ!!・・・と心配していましたが、1月末に1日で約80センチもの雪がドカッと降り、心配しなくても只見には雪が降ってくれるものだと思います。

▽それにして短期間に雪がドカッと降るのでは無く、毎日少しずつ雪が降ってくれば除雪も楽になり、スキー場などもゲレンデの整備がしやすいので、これからはそんな雪の降り方になってくれれば良いなあと思います。

(吉津)

- 1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう
- 1、互いに助け合い親切をつくし楽しい町をつくりましょう
- 1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう
- 1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう
- 1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう

## 町民憲章

生涯学習推進員  
湯田千穂

明和振興センター  
図書室 ☎86-2111

# おすすめ新着図書

## ★下町ロケット2ガウディ計画



池井戸潤/著(小学館)

前作の「下町ロケット」の続編で、今回は医療に関わるお話です。テレビドラマを見たあとでも面白いと大変人気のある本です。涙あふれる内容と期待通りの勧善懲悪の内容で読みごたえがある本になっています。

## ★ふまんがあります



ヨシタケシンスケ/著(PHP研究所)

「パパ!!私はふまんがあります!」と言う娘。「大人はずるいと思うの!」、私も子供の頃に思いました。パパは娘のふまんを聞き、あれこれと理由を言うのですが、その理由がとても面白いです。説得できているのかはなぞですが、しっかり娘の話を聞いて受け答えているパパはステキだなと思いました。ぜひ、親子で読んでいただきたい本です。

★その他、別棟、図書室(旧支所)にもたくさん本を置いております、利用時間は午前9時から午後4時までです。(土日祝日は閉館)ぜひご利用下さい。リクエストも随時受付しています。

(第2問)  
ミズノキ(ミズキ)

13ページ  
只見おもしろ学  
クイズ 答え  
(第1問)  
火の用心

## 今冬の根雪は遅い？

今年1月初旬、町の方から「こんなに雪が降らないのは初めてだ」という声を聞きました。確かに年が明けても雪がほとんど積もらず、1月の中旬の降雪で本格的な積雪量が記録され、ようやく只見らしい雪の季節を実感したところかもしれません。こうした雪の季節の訪れを表す一つの事象として「根雪」という言葉があります。皆さんにも馴染みのある言葉かと思えます。気象庁の用語としては厳密な定義があります。「長期積雪」とも呼ばれ、積雪が30日以上継続する状態のことを言います（ただし、積雪が10日以上継続した後、5日以内の無積雪期間があっても、その後10日以上積雪がある場合も含まれます）。また、その始まりの日は根雪開始日と呼ばれます。今回はこの根雪開始日を使って今年の只見の根雪が遅いのかどうかを調べてみました。只見振興センターの近くにアメダス只見観測所がありますが、そこで観測された1990年秋から2014年春の24回の冬のデータをもとに過去の只見町の根雪開始日を見てみましょう。最も根雪開始日が多かった月は12月で、上旬に7回、中旬に5回、下旬に7回ありました。最も早い根雪開始日は、1993年11月24日で、11月に根雪開始日があった年は1995年、2000年、2005年でした。逆に最も遅い月は1月で、1997年と2008年のそれぞれ1月4日と1月3日でした。このように根雪の開始日は年によって大きく



▲日陰に雪は残っているが、ほとんど雪は見られない。  
(2016年1月4日時点の写真)

変動するようです。また、10年前後の間隔に1度程度、根雪が1月に始まることわかりました。ところで、今冬というと12月後半から断続的に雪が降っており、根雪開始日は12月27日頃になると思われます。過去のデータと比べると比較的遅い根雪開始日になりそうです。統計的なデータを使えばこうした結果になりますが、皆さんの実感としてはいかがでしょうか？

### 企画展示

「只見町の生物多様性を考える」

期 間：2月29日まで開催中

### 自然観察会

「冬の鳥の観察会」

日 時：3月12日(土)

※時間や場所など詳しくは、おしらせばなどで周知します。

### ブナセンター講座

「葉と花の戦略と絶滅危惧種の保全」

日 時：3月13日(日) 13:30~15:00

講 師：鷲谷 いづみ氏(中央大学)

詳しくは、  
只見町ブナセンター  
までお問い合わせ  
ください